

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

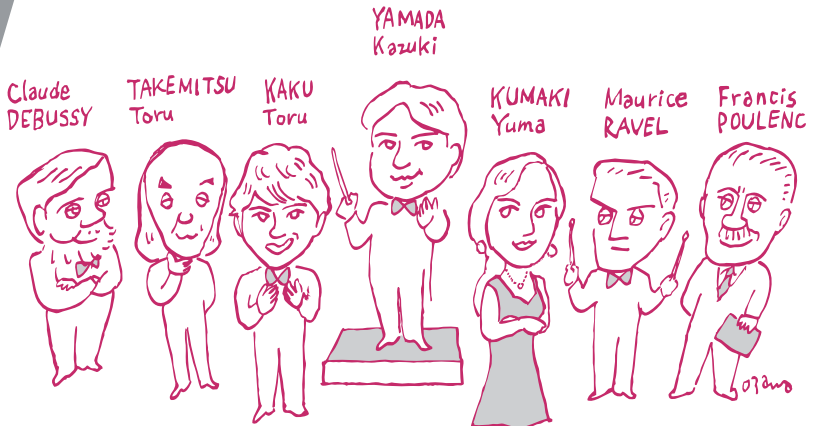
 JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
—— 創立指揮者 渡邊暁雄 ——

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

SUBSCRIPTION CONCERTS

第 776 回
東京定期演奏会

2025
12
DEC



サントリーホール

2025年11月28日(金) 19:00 11月29日(土) 14:00

日本フィルハーモニー交響楽団

♥ 演奏中のマナーにご協力をお願いいたします。

電源 OFF	アラームOFF 電源OFF	演奏中は携帯電話や時計のアラームなどデジタル機器の電源はお切りください。
音にご注意を	ビニール袋	マジックテープやファスナーの音 靴にしまう、または下へ置くなど物音がたたないようにご配慮ください。
	船の袋	鈴などアクセサリがついたストラップ 靴にしまうなど鳴らないようにご配慮ください。
	補聴器の音	ハウリングをおこさないよう、しっかりと装着し、適切な音量に調整をお願いいたします。
声と拍手にご注意を	私語 せき	演奏中の私語はご遠慮ください。咳をする時はハンカチなどで口を覆って響かないようご配慮を。また、拍手やブラボーは指揮棒がおりてから最後の余韻までお楽しみください。
撮影禁止	録音禁止 録画禁止 写真撮影禁止	演奏中の録音・録画・写真撮影は、固くお断りしております。 ※演奏終演後に写真撮影可能な公演がございます。 詳細は公演時にご案内いたします。
周囲にご配慮を	身を乗り出さない つかの広い/高さのある帽子	席から身を乗り出したり、着用している帽子が後ろの席の視界を遮っていることもございます。周囲にご配慮を。



終演時のカーテンコールで写真撮影が可能です。
撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。

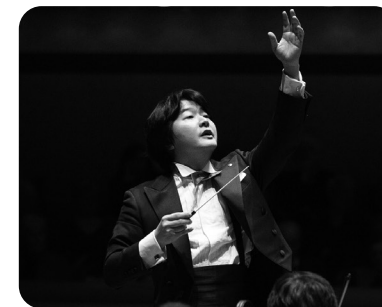
撮影に関しては以下のルールを守ってくださいますようお願い申し上げます

- ・アンコール演奏中の撮影はご遠慮ください
- ・スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影はご遠慮ください
- ・フラッシュの使用はお控えください
- ・動画の撮影はお控えください
- ・撮影の際、手を高く上げるなど周りのお客様のご迷惑になる行為にご注意ください
- ・自席にご着席のまま撮影をお願いいたします
- ・SNS等に掲載する際は、ほかのお客様のうつりごみにご注意ください
- ・自撮り棒などの使用はお控えください
- ・演奏中はスマートフォン、携帯電話の電源をお切りください(録音・録画は違法行為です)

SNSに投稿いただく際は、ハッシュタグ #日本フィル #japanphil をつけてください!

CONTENTS

目次

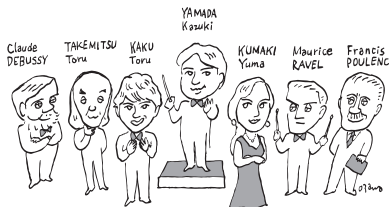


©KY_approved

● プログラム	4
● 出演者プロフィール	6
● プログラム・ノート- 小沼 純一 -	10
● 歌詞対訳	14
● 次回東京定期演奏会 指揮者にインタビュー 広上 淳一編	20
● 今後の日本フィル出演公演	22
● 感動の共有 ~ご支援のお願い~	31
● 日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名	32
● パトロネージュご芳名	36
● あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、あらゆる地域へ、世界へ	38
● 写真プレイバック- 2025年9月 -	39
● 第九特別演奏会2025	40
● メンバーズ TVU チャンネル 配信一覧	41
● インフォメーション	42
● 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 名簿	43

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA 776th SUBSCRIPTION CONCERTS

日本フィルハーモニー交響楽団
第776回 東京定期演奏会



サントリーホール Suntory Hall

2025年11月28日(金)午後7時開演 / 29日(土)午後2時開演
7:00p.m., Friday, 28th & 2:00p.m., Saturday, 29th November, 2025

■ プレトーク「本日の聴きどころ」

東京定期演奏会では、毎回これから始まるコンサートの聴きどころや楽曲解説、アーティストの素顔等を紹介いたします。今月は指揮者の山田和樹さんです。

金曜日 / 18 : 30 ~
土曜日 / 13 : 20 ~

主催 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

協賛 / 株式会社ウテナ 鹿島建設株式会社

TANAKEN株式会社

ホッカンホールディングス株式会社

三井不動産株式会社 UBE株式会社

助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会



表紙イラスト / 小澤 一雄

指揮者インタビューはこちらから▶
(11月東京定期プログラム掲載)



*この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。ご要望の方は主催者までお申し出ください。

ドビュッシー: バレエ音楽《遊戯》

約20分

Claude DEBUSSY: Jeux, Poème dansé

武満徹: マイ・ウェイ・オヴ・ライフ

約18分

— マイケル・ヴァイナーの追憶に — **,** **

TAKEMITSU Toru: My Way of Life — In Memory of Michael Vyner —

休憩(15分) Intermission

ラヴェル: ボレロ

約15分

Maurice RAVEL: Boléro

プーランク: スターバト・マーテル**,** **

約32分

Francis POULENC: Stabat Mater, pour soprano solo, chœur mixte et orchestre

指揮: 山田 和樹

Conductor: YAMADA Kazuki



バリトン: 加来 徹*

Baritone: KAKU Toru

ソプラノ: 熊木 夕菜**

Soprano: KUMAKI Yuma

合唱: 東京音楽大学、ハルモニア・アンサンブル**

Chorus: Tokyo College of Music, harmonia ensemble

コンサートマスター: 田野倉 雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ご自宅で
公演の感動を
何度でも

11月28日(金) 公演は一部ライブ & アーカイブ配信あり!

販売期間: ~2026年5月27日

視聴期間: 購入から3か月

料金: 1,000円

Member's TVU CHANNELにて配信
<https://members.tvuch.com>



現在配信中の公演及び配信予定はP41をご覧ください



Conductor

指揮

山田 和樹

YAMADA Kazuki

©Zuzanna Specjal

2009年、第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・プラツソンの代役でパリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。

これまでに、2012年から2018年までスイス・ロマンダ管弦楽団の首席客演指揮者を務めた。2016/17シーズンからはモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督を務め、2024年5月にはバーミンガム市交響楽団音楽監督に就任した(2023年4月より首席指揮者兼アーティストックアドバイザー)。さらに、2026/2027シーズンより、ベルリン・ドイツ交響楽団首席指揮者兼芸術監督に就任予定である。

日本国内では、2012年から2022年までの10年間日本フィルハーモニー交響楽団の正指揮者を務めたほか、東京混声合唱団の音楽監督兼理事長、学生時代に創設した横浜シンフォニエッタの音楽監督を務めている。2026年4月より東京芸術劇場の芸術監督(音楽部門)に就任予定。

世界の主要オーケストラに招かれており、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、トゥールーズ・キャピト

ル国立管弦楽団、フランス国立管弦楽団に定期的に客演。近年は、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、サンフランシスコ交響楽団などにデビュー。また、エマニュエル・アックス、エフゲニー・キーシン、クリスチャン・ツィメルマン、イザベル・ファウスト、チョ・ソンジンなど、世界的なトップソリストとの共演も重ねている。小澤征爾スイス国際アカデミーに毎年ゲスト・アーティストとして招かれるなど教育活動にも熱心で、バーミンガム市交響楽団のアウトリーチ・プログラムにも注力している。

受賞歴も多く、出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、第56回サントリー音楽賞など多数。2022年にはモナコ公国からシュバリエ文化功労勲章を受章。

東京藝術大学指揮科で松尾葉子・小林研一郎の両氏に師事。ベルリン在住。



Baritone

バリトン

加来 徹

KAKU Toru

©T. Tairadate

福岡市出身。東京藝術大学大学院修士課程を首席で修了。修了時に大学院アカンサス賞受賞、武藤舞奨学金を受ける。二期会オペラ研修所マスタークラスを総代で修了。最優秀賞および川崎静子賞受賞。第20回友愛ドイツリートコンクール第2位。

バロックから現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、バッハ・コレギウム・ジャパンでは「マタイ受難曲」のCDに参加する他、2021年1月の《エリアス》ではタイトルロールを務め絶賛された。2026年3月から4月にかけて開かれるオランダバッハ協会の「マタイ受難曲」公演のソリストに抜擢され、オランダ各地での13公演の出演が予定されている。

東京オペラシティ財団主催リサイタルシリーズ《B→C》では東京、福岡両公演満席の中、10ヶ国語による歌曲プログラムを熱演。

オペラでは《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモ、《ランメルモールのルチア》エンリーコ、《ナクソス島のアリアドネ》ハルレキン、《ジューリオ・チェーザレ》アキッラ、《ルル》シェーン博士、《金閣寺》鶴川、《こうもり》ファルケ、《午後の

曳航》1号役などに出演。

舞台・ミュージカル作品での演奏も好評で、日生劇場主催《アラジンと魔法のヴァイオリン》《アラジンと魔法の音楽会》ではアラジン王子役として全国でツアーを行ない、2018-19日本フィル&サントリーホール『とっておきアフタヌーン』ではナビゲーターとして出演。

メディアでもテレビ朝日『題名のない音楽会』をはじめ、NHK-Eテレ『すくすく子育て』NHK-FM『リサイタルノヴァ』などに出演し活動の場を広げている。

2025年4月には5thアルバム『TORU KAKU meets SCHUMANN』をリリース。

その他MSJ『フィガロの結婚』CDフィガロ役やプロムジカ使節団CD『イタリアンソングwith加来徹』ではイタリア初期バロックのプログラムを演奏している。

女声合唱団「サーナ・テクセラ」音楽監督、混声合唱団「コール・グラウベン福岡」音楽監督。洗足学園音楽大学非常勤講師。



Soprano

ソプラノ

熊木 夕茉

KUMAKI Yuma

©GODA

奈良市出身。大阪教育大学教員養成課程小中教育専攻教育コース卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。第7回豊中音楽コンクール大学・一般の部にて入賞を皮切りに、第27回 KOBE 国際音楽コンクール(兵庫県文化協会賞受賞)、第25回姫路パルナソスコンクール、第43回飯塚新人音楽コンクール、第33回宝塚ベガ音楽コンクール・声楽部門等で連続して高位入賞。

2024年、原田慶太楼指揮 東京交響楽団 第723定期演奏会でプーランク「グローリア」のソリストを務め、日本楽壇にデビュー。歌曲はドビュッシー、フォーレのフランス歌曲や武満徹作品などに取り組み、オペラではヘンデル《アタランタ》メレアグロ、《アルチーナ》モルガーナ、モーツァルト《後宮からの逃走》コンスタンツェ、《皇帝ティートの慈悲》ヴィテリリア、トマ《ハムレット》オフェーリア、ロッシーニ《ブルスキエーノ氏》ソフィア、ドニゼッティ《ランメルモールのルチア》ルチア、グノー《ロミオとジュリエット》のジュリエット、《ミレイユ》ミレイユ、《こうもり》アデーレ、《ラ・ボエーム》ムゼッタなどのレツジェーロ・コロラトゥーラの作品を特に

得意としている。

そして、2024年には日生劇場《連隊の娘》マリー役(主演)を務めて、日本での鮮烈なオペラデビューを飾った。

2025年には愛知室内オーケストラの新春コンサートに出演し、この秋には山田和樹指揮 日本フィルハーモニー交響楽団でプーランク「スターバト・マーテル」、読売日本交響楽団「第九」等のオーケストラとのデビューが予定されている。

これまでに、寺尾正、浦田恵子、日紫喜恵美、高橋薫子、クラウディア・マルキの各氏に師事。

2024年度公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団の助成を得てイタリアで研鑽中。



Chorus

合唱

東京音楽大学

Tokyo College of Music

東京音楽大学合唱団は「合唱」授業科目の履修者から選抜された学部生と声楽専攻の大学院生を中心に構成する混声合唱団で、国内外の著名オーケストラと数多くの共演を果たしている。日本フィルハーモニー交響楽団との共演は、「第九」を始めとして1979年以来40年以上の歴史を持つ。

2023年には日本フィルハーモニー

交響楽団「クレルヴォ交響曲」「第九」「道化師」「カルミナ・ブラーナ」、2024年には「地中海のテーマ」「第九」、2025年には「復活」、《仮面舞踏会》、《惑星》に出演。

合唱指導は2024年度より、志村文彦、杉野正隆、藤牧正充、浅井隆仁の各氏に加え、フレンドリー・アドバイザーとして広上淳一氏を迎えている。



Chorus

合唱

ハルモニア・アンサンブル

harmonia ensemble

2009年4月に高水準の合唱演奏の実現による日本の合唱文化の発展を目的として結成されたプロフェッショナルの室内合唱団。ルネサンスから現代音楽までの幅広い合唱音楽をレパートリーとし、日本の作曲家への委嘱活動も積極的に行っている。第40回トゥール国際合唱コンクール(仏)グランプリ及び聴衆賞、第10回世界合唱シンポジウムに

招聘。主催公演の他、全国の合唱祭への招待、芸術鑑賞教室、CD録音、『日本名曲アルバム』、『ららら♪クラシック』sへのTV出演等多岐に亘り活動している。日本フィルハーモニー交響楽団定期公演には2021年ホルスト《惑星》(指揮:山田和樹)、2023年にマーラー「交響曲第3番」(指揮:カーチン・ウォン)に出演している。音楽監督:福永一博。

❖ プログラム・ノート 解説:小沼 純一 ❖

一見してすぐわかる。20世紀前半に活躍したフランスの作曲家が3名と武満徹とが組みあわされた4曲というプログラム、と。ドビュッシーとラヴェルは舞踏のための音楽として書き、プーランクと武満徹は独唱・合唱を伴っている。楽曲のつくり、ひびきのつながりという点で、数多な違いはありつつも、ひびきあうところがある作品たち、とおもう。だが、すこし何かが引っ掛かる。何だろう——しばらく考えてわかったのは、これらの作品が作曲家の生涯、終わりにちかい時期に書かれたということ。《遊戯》は55年の生涯で50歳、《ポレロ》は62年の生涯で53歳、《マイ・ウェイ・オヴ・ライフ》は65年の生涯で60歳、《スターバト・マーテル》のみすこし早く、64年の生涯で51歳。多少の違いはあるけれど、いずれも50歳は越えての作品だ。もうひとつは、武満作品とプーランク作品は、亡くなってほどない友人へと捧げられた一種のミサ曲でもあること。ドビュッシーとラヴェルの3拍子で書かれたそれぞれの舞踏曲と、合唱をともなう穏やかな大曲が交互に配される、構成として稀有なプログラムではないだろうか。

◆ ドビュッシー:バレエ音楽《遊戯》

クロード・ドビュッシー(1862-1918)の最後のオーケストラ曲にして、舞踏のための音楽で、原題は「Jeux, poème dansé」、副題に「踊られる詩」とある。委嘱はバレエ・リュスのセルジュ・ディアギレフ、ヴァーラフ・ニジンスキーの台本と振付、レオン・バクストの舞台美術・衣裳、ピエール・モントゥー指揮で1913年5月、シャンゼリゼ劇場にて初演。ドビュッシーは舞踏のための作品をほかにも残しているものの、いずれも生前に初演に至っていない。唯一、出世作ともいえる《牧神

の午後への前奏曲》(1894)は、《遊戯》前年の1912年《牧神の午後》として(やはりニジンスキーの手により)バレエ化されてはいるのだが、はじめから踊られるために書かれ、初演もおこなわれたという意味では唯一の作品が《遊戯》なのだ。ちなみにシャンゼリゼ劇場は1913年4月に開館。5月15日に《遊戯》の初演、まだ1か月強。しかも同月29日にストラヴィンスキー《春の祭典》初演が。斬新な《遊戯》だったのだが、《春の祭典》の「事件」には及ばなかった。尤も、翌1914年5月にコンセール・コロ

ヌでの演奏会以降、《遊戯》は重要なオーケストラ・レパートリーとなり、さらに第二次世界大戦後は当時の若き作曲家たち(ジャン・バラケ、ピエール・ブーレーズ)らが「予言」的であることを強調するようにもなった。聴いていると、いささかとらえどころのなく感じられるかもしれないが、細かいところまでじつに精妙に組み立てられており、20世紀後半以降の音楽への予言となったのである。

時は夕暮れ。テニス・ラケットを持つ男性と2人の女性のいちゃつきがバレエになっている。楽曲のタイトルは「遊戯(jeux)」とされるものの、大枠はテニスの試合と、いちゃつきと、両者を掛けている。しょっちゅう

曲調が変わるのは、3人のさまざまな関係が入れ替わるから。ときに諍いがあり、ときに優しくしたり、ときに遠ざかったりといった舞台上の様子を想像すると、楽曲上の複雑なつくりより、身近に感じられようか。戯れの三角関係の機微が音楽のなかに織りこまれていると言い換えることもできるかもしれない。テンポも移り変わるが、3拍子で3人、という重なりがある。

楽器編成:ピッコロ2、フルート2、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ、シンバル、トライアングル、タンブリン、シロフォン、ハープ2、チェレスタ1、弦楽5部。

◆ 武満徹:マイ・ウェイ・オヴ・ライフ —マイケル・ヴァイナーの追憶に—

1990年6月30日、武満徹(1930-1996)がテーマ作曲家だった(イングランド北部の)リーズ・フェスティヴァルで初演(フランソワ・ルールのバリトン、オペラ・ノース合唱団、サイモン・ラトルの指揮、バーミンガム市交響楽団)。テキストがあり、独唱と合唱を伴ったオーケストラ作品は、この作曲家では唯一のもの。テキストは詩人・田村隆一(1923-1998)のエッセイ(高橋康也の)英訳

が用いられる。「生活作法」を、木をみつめ、木の「生活作法」を、ひとと対照しながら考え、ことばに、うたにする——ことばと音楽が、ひとと木とかさねられるように、ひとつとなる。

「作曲家を志した頃、私は、重症の結核で、たえず死というものに脅かされていた。そして現在は、健康ではあっても、死は以前よりもずっと間近にあり、それをおそれるよりは、むしろ、親しいものとして感じられるよう

な年齢になった。私は、現在、ごく素直に自分のうたを親しい友たちの前でうたうような気持ちで、この作曲を終えた」——武満徹のプログラム・ノートにはこのような文章がある。かならずしも朗々とうたいあげられるわけではないものの、息によってうたがふくらみ、またゆっくりと落ちつく、ひとの呼吸が持つ紡錘のかたちを持っている。はじめ「前衛」と呼ばれていた時期の作品とは異なり、親しみやすいメロディが、この作曲家に特徴的なひびきのうえに重ねられる音楽だ。

マイケル・ヴァイナー(1943-1989)はイギリスの音楽ディレクターで、

◆ラヴェル:ボレロ

1928年11月22日、パリ・オペラ座で初演。前年、モーリス・ラヴェル(1875-1937)はダンサーのイダル・ビンシュタインの依頼を受ける。はじめはアルベニスのピアノ曲から数曲選び、オーケストラ用に編曲するというものだった。作業は進められたが、ほかの作曲家が並行しておなじような編曲を手掛けていたことが発覚、作曲家はべつの、オリジナル作品へと方向を転換する。作曲はかならずしもスムーズではなかったようだし、完成しても自作について作

ロンドン・シンフォニエッタを創設、リーズ・フェスティヴァルで本作を作曲家に委嘱した人物だったが、初演の前年に逝去。武満徹はフェスティヴァルとつながりのあるこの作品のみならず、ピアノのための《リタニー・マイケル・ヴァイナーの追憶に》を、没後、捧げている。

楽器編成:独唱/バリトン、混声4部合唱、フルート3(ピッコロ持替1、アルト・フルート持替1)、オーボエ2(オーボエ・ダモーレ持替1)、クラリネット3(E♭管クラリネット持替1、バス・クラリネット持替1)、ファゴット2(コントラ・ファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、シンバル、トライアングル、チャイニーズ・シンバル、アンティーク・シンバル、チューブラーベル、ゴング、ヴィブラフォン、銅鑼、グロックンシュピール、ハープ、チェレスタ、弦楽5部。

曲家は半信半疑であったといわれるけれど、じき初演から100年を迎えつつある現在、コンサート・ピースのみならず、斬新な舞踏から映画と、人気は衰えるようにはみえない。

スネア・ドラムのリズムは変わらない。冒頭からエンディングまで。最後の数小節をのぞいて、このリズムにのって16小節のパターンが2回、つづいてもうひとつの16小節のパターンが2回くりかえされる。楽器を変え、ひたすらクレッシェンド。このかたちが全部で4回。さらに一度、は

じめの16小節が、さらにもうひとつのパターンの16小節がすこし変形され、崩れ落ちるように、終わる。このさまは、何に似ているだろう？

◆プーランク:スターバト・マーテル

1951年6月13日、ストラスブルで、フリッツ・ミュンシュ指揮、ジュヌヴィエーヴ・モワザンがソプラノ独唱で初演。

フランシス・プーランク(1899-1963)は敬虔なカトリック信者で、多くの宗教作品を手掛けた。本作と、ほぼ10年後の《グローリア》、そして作曲家の没後に初演された《テネブレの7つの応唱》が独唱と合唱にオーケストラが加えられた作品として、ある。

スターバト・マーテルは悲しみの聖母と訳され、イエス・キリストが磔刑となったとき、聖母マリアがうけた悲嘆を浮かびあがらせる。プーランクが用いたのは、13世紀の修道士であり詩人、ヤコポーネ・ダ・トゥーディのテキスト。そして、タイトルの傍らには、「クリスティアン・ベラルールの想い出に、その魂がロカマドゥールの聖母に託されるように」と記されている。「誰々のおもいでに」と記した楽曲をいくつも残しながら、いわゆる「レクイエム/死者のためのミサ曲」を手掛けなかったプーランクが、レクイエムと呼ぶかわりに残した、以下12曲の宗教的大作である。

楽器編成:ピッコロ1、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2(オーボエ・ダモーレ持替1)、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2(E♭管クラリネット持替1)、バス・クラリネット1、サクソフォン2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、D管トランペット1、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、小太鼓、銅鑼、ハープ1、チェレスタ1、弦楽5部。

悲しみの聖母は(Très calme)／嘆き、憂い、悲しむその魂は(Allegro molto-Très violent)／神のひとり子の聖なる母(Très lent)／敬虔なる聖母は(Andantino)／キリストの御母が(Allegro molto-Prestissimo)／聖母は最愛の御子が(Andante)／ああ聖母よ(Allegro)／私の心が(Maestoso)／聖なる母よ(Moderato-Allegretto)／私にキリストの死を負わせ(To.de Sarabande)／聖なる処女よ(Animé et très rythmé)／この身が死にゆくとき(Très calme)

ベラルールは画家で舞台美術家、コクトーらのちかくにいた仲間のひとり。1949年に没。ロカマドゥールの聖母とは、かの地の聖堂に収められている、木でできた1メートル足らずの聖母像だが、全体が黒い(フランス中央高地にはこのような黒い聖母が何体も存在する)。

楽器編成:独唱ソプラノ、混声5部合唱、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ、ティンパニ、ハープ2、弦楽5部。

マイ・ウェイ・オブ・ライフ — マイケル・ヴァイナーの追憶に—

作詩 田村 隆一 高橋 康也 (英訳)

My Way of Life

Text by Ryuichi Tamura (in English,
translated by Yasunari Takahashi)

Baritone

I was once asked to write about “my way of life.” The expression puzzled me. I suppose a cat has its way of life, and a dog must have its own. So I composed the following poem.

Chorus

I like a tree because it is mute.
I like a tree because it doesn't walk or run around.
I like a tree because it doesn't yell about love or justice.

Is this true?
Is it really so?

Baritone

To a discerning eye,
A tree is whispering—in its calm, soothing voice.
A tree is walking—towards the sky.

A tree is running as swiftly as lightning—into the earth.
True, a tree doesn't yell, yet
A tree is

私の生活作法

テキスト: 田村隆一

バリトン

生活作法ということを知ってぼくはびっくりした。猫には猫の生活作法があり、犬には犬の生活作法があるだろう。そこでぼくはこんな詩をかいてみた。

合唱

木は黙っているから好きだ
木は歩いたり走ったりしないから好きだ
木は愛とか正義とかわめかないから好きだ

ほんとうにそうか
ほんとうにそうなのか

バリトン

見る人が見たら
木は囁いているのだ ゆったりと静かな声で
木は歩いているのだ 空にむかって

木は稲妻のごとく走っているのだ 地の下へ
木はたしかにわめかないが
木は

Love itself, Otherwise, why would birds come flying
To perch on its branches?
It's justice itself.
Otherwise, why would its roots suck up subterranean water
To return it into the air?

Chorus

Green sapling.
Gnarled old tree.
No two trees are the same.
No two trees are awake
In the selfsame starlight.

Tree,
I love you deeply.

Baritone

A human being has its own way of life, which is usually referred to as “his or her style”.
Now let me give you some tips on my way of life.
Sleep soundly.
Go on long walks.
Daydream. (Let's subside gracefully into senility.)

Chorus

Starlight.
Wild flower.
Surging horizon where sea meets sky.
Inverted horizon where earth meets sky.

愛そのものだ それでなかったら小鳥が飛んできて
枝にとまるはずがない
正義そのものだ
それでなかったら地下水を根から吸いあげて
空にかえすはずがない

合唱

若木
老樹
ひとつとして同じ木がない
ひとつとして同じ星の光のなかで
目ざめている木はない

木
ぼくはきみのことが大好きだ

バリトン

人には、人の生活様式があり、その様式をスタイルと呼ぶ。
では、私の生活作法をお教えしよう。
よくねむること
よく歩くこと
ぼんやりしていること (みんなと一緒よに美しくぼけましょう)

合唱

星の光
野の花
さかまく地平線
倒立する地平線

Beneath a hat, a face.
Beyond the open door, a figure.

The mark of a bird's wing
Etched in the snow.
The footprints of a small animal.
The speed of the setting sun.
The misty moon in spring.

Baritone

"It is not time that passes on
But ourselves. We pass on".
So
I once wrote.
I have seen many pass on.
I too
Will pass on some day.

Chorus

One sees with a pair of eyes.
Whatever
Have they witnessed?

Baritone & Chorus

"Time" is all they have witnessed.

帽子の下に顔があり
ドアをあければ人がいる

雪にきざまれた
鳥の羽
小動物の足跡
秋の夕陽の落下速度
春のおぼろ月

バリトン

「時が過ぎるのではない
人が過ぎるのだ」
と
ぼくは書いたことがあったっけ
その過ぎてゆく人を何人も見た
ぼくも
やがては過ぎて行くだろう

合唱

眼が見える
いったい
その眼は何を見た

バリトンと合唱

「時」を見ただけ

©1991 Schott Japan Company Ltd.

プーランク:スターバト・マーテル  歌詞対訳:日本フィル企画制作部 

I
Stabat Mater dolorosa
juxta Crucem lacrimosa,
dum pendebat Filius.

II
Cuius animam gementem,
contristatam ac dolentem
pertransivit gladius.

III
O quam tristis et afflicta
fuit illa benedicta,
Mater Unigeniti!

IV
Quae moerebat et dolebat
et tremebat dum videbat
Nati poenas inclyti.

V
Quis est homo qui non fleret
Matrem Christi si videret
in tanto supplicio?
Quis non posset contristari
Matrem Christi contemplari,
dolentem cum Filio?
Pro peccatis suae gentis
vidit Jesum in tormentis
et flagellis subditum.

VI
Vidit suum dulcem Natum

I
悲しみの聖母は佇んでいた
涙ながらに 御子の懸けられた
十字架のもとに

II
嘆き、憂い、悲しむその魂は
鋭い刃によって
貫かれた

III
神のひとり子の聖なる母
その悲しみと痛みは
どれほどか

IV
敬虔な聖母は
尊き御子の苦しみをみて
悲しみに沈む

V
キリストの御母が
かくも苦悩する姿を見て
涙せぬ者がいるだろうか
キリストの御母が
その御子とともに苦しむのを見て
悲しまぬ者がいるだろうか
聖母はイエスが
人々の罪のため
責められ鞭うたれるのを見た

VI
聖母は最愛の御子が

desolatum morientem
dum emisit spiritum.

VII

Eja Mater fons amoris,
me sentire vim doloris,
fac, ut tecum lugeam.

VIII

Fac, ut ardeat cor meum
in amando Christum Deum,
ut sibi complaceam.

IX

Sancta Mater, istud agas
Crucifixi fige plagas
cordi meo valide.
Tui nati vulnerati
tam dignati pro me pati
poenas mecum divide.
Fac me tecum pie flere,
Crucifixo condolere,
donec ego vixero.
Juxta crucem tecum stare
te libenter sociare
in planctu desidero.
Virgo virginum praeclara,
mihi jam non sis amara,
fac me tecum plangere.

X

Fac ut portem Christi mortem,
passionis fac consortem
et plagas recolare.

御魂を見捨てられ
息絶えゆくのを見た

VII

ああ聖母よ、慈しみの泉よ
私にその悲しみを感じさせ
あなたと共に嘆かせてください

VIII

私の心が
主たるキリストへの愛へ燃え
その御心にかないますように

IX

聖なる母よ
十字架に懸けられた御子の傷を
私の心に深くしるしてください
私のために傷つけられた
御子の苦しみを
私にも分かち合わせてください
共に嘆かせてください
十字架に懸けられた御子の苦しみを
私の命ある限り
あなたとともに
十字架のもとに立ち
共に嘆かせてください
選ばれし処女よ
私を退けず
あなたと共に嘆かせてください

X

私にキリストの死を負わせ
受難をともに受けさせ
傷を与えてください

Fac me plagis vulnerari
cruce hac inebriari,
ob amorem Flii.

XI

inflammatus et accensus
per te, Virgo, sim defensus
in die judicii.
Christe, cum sit hinc exire,
da per matrem me venire
ad palmam victoriae.

XII

Quando corpus morietur,
fac ut animae donetur
paradisi gloria.
Amen.

その傷を私にも負わせ
十字架と御子の血をもって
酔わせてください

XI

聖なる処女よ、
地獄の火に焼かれぬよう
審判の日にお守りください
キリストよ、この世を去るときには、
あなたの御母を通して、
勝利の栄冠へと私を導いてください。

XII

この身が死にゆくとき
魂には
楽園の栄光をお授けください
アーメン

